

僕は中海が好きです。ですが僕は中海をあまり知らないです。中学三年生が始まったぐらいの時、僕はひいおじいちゃん（曾祖父）の四回忌の集まりで昼ご飯におばあちゃんに由志園に連れてってもらいました。そして由志園を見て回っていると高麗人参ミュージアムというのがある、そこに行きました。そしてそこには中海と大根島について説明をしているジオラマがあってそこには大根島に淡水の池や水があるのは、淡水レンズと呼ばれる、地下に真水のたまった層があるからだということが書いてありました。だから僕は中海はどうゆう湖なのだろうと思って中海について興味が沸いてきて、学校にある本やネットなどで調べることにしました。

僕はまず最初に中海と宍道湖は繋がっているの、中海と宍道湖の歴史について調べました。そこでわかったのが中海はもともと海の一部であった水域が砂州の発達などによって、閉じ込められた水域に変わったものだということがわかりました。もっと詳しく調べてみると、千九百二十年代に大橋川の底の泥をさらう浚渫工事が行われてその工事によって、中海の塩水が宍道湖にもたくさん入ってくるようになって、現在のような汽水湖に変わって、中海では千九百六十年代から始まった干拓工事によって、環境が大きく変わったと知りました。

次に僕は宍道湖と中海の汽水環境について調べました。わかったのは宍道湖と中海には、およそ五十の河川が流れこんでいて、その一つ一つの河川には、いくつもの支流があって、その支流はさらに多くの小川などに枝分かれするということがわかりました。もっと詳しく調べてみると大木が地面に根を張りめぐらせて、地中の水分を集めるように、川も支流を通して広い範囲から雨水を集めます。その範囲のことを流域というそうです。宍道湖と中海に注ぐ河川の流域の面積は、宍道湖と中海を足した面積の十倍以上にもなるそうです。そして、多くの河川によって宍道湖と中海に運ばれた水は、最終的には境水道という出口を通過して海へと流れます。この出口は、時には入口にもなります。その理由はふだんの宍道湖と中海の湖面の高さは日本海の海面よりもわずかに数十センチ高いだけです。満ち潮や高潮になるとその差が逆になり、海面の方が高くなってしまいます。このとき、海水が境水道から流れこんでくるのです。その結果、海と川の水は湖の中でゆっくり混じり合い、塩分の割合が海水と淡水の間である汽水という水になるということを知りました。

僕のおじいちゃんが宍道湖と中海は最近濁りがひどいときがあると言っていたので調べてみると宍道湖と中海は近年、濁りがだんだんひどくなり、透明度が下がってきているということを知りました。原因は、植物プランクトンという顕微鏡でしか見えない小さな微生物が繁殖していて、湖に流入する窒素、リンなどの栄養分（肥料成分）が増えたため、植物プランクトンが、魚や貝が食べきれないほど発生して、水を汚し、さらに死骸が湖底に沈み、ヘドロとなって水中の酸素をなくしていくなど、湖の環境を悪くしていることもわかりました。

僕は宍道湖と中海はすごい湖、さすがは水の都松江にある湖だなーと思いました。ですが、宍道湖も中海もすごい湖だけど人間のせいで環境への悪影響があるということも知りました。

僕はこんなすごい湖を逆になんで知らなかったのだろうと思いました。宍道湖と中海について知る前の僕みたい知らない人がいっぱいいると思うので、まずは、宍道湖と中海について知ることが大切だなと思いました。